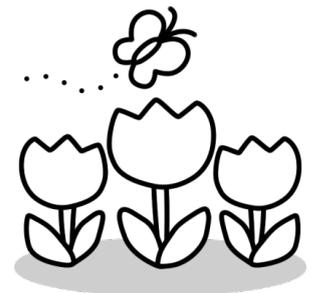


もくじ

ここがへんだよ、日本の脱炭素 ー蓄電池とバイオマスの課題から	3
01. Let's Talk! 世界と出会う、英語	4
02. タシ ハンボン / もういちど ハングル	
03. 越境する人と文化を通して読み解く東アジア V	5
04. 人と動物の共存・共生をめざして part 2	6
05. 先住民族の森川海に関する権利 ーヤウンモシリ（北海道）の森林とアイヌ民族	7
06. 札幌オリパラを考えよう	8
07. 映像で見るウクライナの今	9
08. 日本の植民地主義を考える ー共につなぐ未来のために	10
☆ ダークツーリズム 芦別炭鉱労働者の記憶をつなくバスツアー	11
☆ 国際シンポジウム「先住権としての川でサケを獲る権利」	
09. 20世紀を切り開いたアイヌ列伝 part 3	12
10. このままでいいの？再生可能エネルギーの進め方 part12	13
11. 女性の貧困を考える	14
12. 森崎和江を偲ぶ	15
13. SDGs「私たちの声を、地域に」 part 2 ー多様なセクターが担う役割とは	16
14. なぜ公害はつづくのか	17
15. 現在と歴史 ーウクライナ戦争とアジア・太平洋戦争を考える	18
16. 出版文化の可能性 ー北海道から全国に向けて発信しよう part 1	19
17. 老後のファイナンシャルプランを考える ー人生 100 年時代を豊かに生きるには	20
18. 老いと向き合う part 9	21
19. 簡単健康講座 ー五臓六腑の五臓を学ぶ。東洋医学でお手軽養生！	22
20. アイヌアートデザイン教室	23
21. 読書室よりみちまわりみち	
22. カール・マルクス著『資本論』を読む	24
23. 花さんの読書ゼミ 記憶に残る詩を味わう	
24. 動物福祉の名著『アニマル・マシーン』を読む	25
25. 「遊」版うたごえ喫茶 2023	
☆ 美味しい講座「縄文を食べる」	26
協力団体からのお知らせ	27
さっぽろ自由学校「遊」設立趣旨など	28



講座の開催形態とお申込方法

講座の開催形態は、①会場実施のみ、②会場とオンラインの併用、③オンラインのみ、の3種類となっています。以下のロゴマークを参照ください。



講座受講のお申込は、以下のいずれかの方法でお願いいたします。

<方法1> 以下の申込フォーム URL (右のQRコード) より、申込フォームにご記入のうえ、お送りください。

申込フォーム URL : <https://onl.tw/yYfFdL9>

(さっぽろ自由学校「遊」のウェブサイトからもアクセスできます)

<方法2> 以下のメールアドレス宛に、「講座申込」のタイトルで希望の講座名(単発の場合、日程も)、受講形態(会場/オンライン)、お名前、ご住所、メールアドレスを記入のうえ、お送りください。 moshikomi@sapporoyu.org



上記の方法でお申込いただいた後、以下の郵便振替口座に参加費をお振り込みください(記入が可能な場合は、通信欄に講座名や受講日をご記入ください)

郵便振替口座 02780-5-47036 自由学校「遊」(記号 02780 番号 047036)

※他行からお振込みの場合、ゆうちょ銀行(9900) 二七九店(279) 当座 0047036

<受講料(参加費)について>

・連続講座の受講料は、「通し」は連続講座全回分の料金、「単発」は1回毎の参加料金となります。

・受講料の種別について

会 員：さっぽろ自由学校「遊」の正・準会員の方。

なお、特別会員の方は**単発参加設定のある連続講座に無料で参加**できます。

一 般：上記以外のすべての方が対象です。(25歳以下の若者は、特別料金で参加できます)

<ボランティア・インターン募集!>

さっぽろ自由学校「遊」は、市民が自主的に運営している「学びの場」です。その運営は多くのボランティア・スタッフによって支えられています。単純作業のお手伝いといった軽い関わりから、講座のコーディネートなどの深い関わりまで、様々な関わり方が可能です。活動に興味のある方は、事務局までご連絡ください。学生などのインターンも募集しています。

G7を機に北海道から考える!

ここがヘンだよ、日本の脱炭素 —蓄電池とバイオマスの課題から



2023年4月15・16日に、札幌でG7気候・エネルギー・環境大臣会合が開催されます。世界で最も経済的に豊かな7か国の大臣が、これからの環境とエネルギー、特に気候変動対策としての脱炭素社会に向けた足並みをそろえるための議論が交わされようとしています。各国は様々な立場で会合に臨みますが、その中でひとさき異彩を放つのが日本です。日本が議長国の立場で進めようとしている脱炭素計画とはどのようなもので、それは国際的にはどのように位置づけられる政策なのでしょうか?

気候変動対策として進められる再生可能エネルギー普及に関連して、第一部では蓄電池の原料採掘と、第二部では森林資源を輸入して進められるバイオマス発電にフォーカスし、第三部では脱炭素の促進により北海道で起きている問題について報告します。誤った気候変動対策が進められることがないように、さっぽろG7を機に考えましょう。ぜひご参加ください。

■日 時 2023年4月15日(土) 13:00~17:00

■会 場 北海道自治労会館 4Fホール(札幌市北区北6条西7丁目5-3)
*オンライン(zoom使用)参加可

■参加費 会場・オンラインともに無料

■お申込 <https://www.parcfs.org/decarbo0415>

オンライン参加でお申し込みの方には前日までに参加リンクをお送りします。

事前申込で定員に達しない場合は会場参加の方はお申込なくご参加いただくことも可能です。

■プログラム(予定)

第一部 海の環境を破壊する深海採掘 ※英→日 逐次通訳あり

●報告 ナタリー・ラウリー(アジア太平洋調査ネットワーク/深海保全連合)
ティータ・カラ(トンガ市民社会フォーラム)

第二部 間違いだらけのバイオマス発電

●報告 泊みゆき(バイオマス産業社会ネットワーク)
飯沼 佐代子(地球・人間環境フォーラム)

第三部 北海道の自然と自治を破壊する新たなエネルギー開発

●報告 佐々木 邦夫(北海道風力発電問題ネットワーク代表)
井上 敦子(泊原発を再稼働させない・核ゴミを持ち込ませない北海道連絡会)

【共催】アジア太平洋資料センター(PARC) さっぽろ自由学校「遊」 Fair Finance Guide Japan
(一財)地球・人間環境フォーラム

【お申込・お問合せ】

・会場参加について さっぽろ自由学校「遊」(担当:小泉)

TEL:011-252-6752 FAX:011-252-6751 E-mail: moshikomi@sapporoyu.org

・オンライン参加、その他お問合せについて アジア太平洋資料センター(PARC)(担当:田中)

TEL:03-5209-3455 FAX:03-5209-3453 E-mail: office@parc-jp.org

※テレワーク体制のため、お問い合わせは極力メールにてお願いします。

※メールの際には件名に本イベントタイトルをご記入ください。



申込QRコード

01. Let's Talk! 世界と出会う、英語



オンライン

簡単な英単語と文法を使って、グローバル社会に関連する記事を通じてリスニングとスピーキングスキルを向上させましょう。マルチリンガルで経験豊富な講師が指導いたします。また、講師は日本語も堪能ですので、英語がわからない場合は日本語で質問することもできます。安心して学べる環境を提供いたします。英語がまったくできないということは問題ありません！参加するだけで、楽しみながら学ぶことができます！さらに、定期的なオンラインセッションで多国籍のゲストと直接学ぶことができますので、クラスで学んだことを現実的な状況で活用する機会があります。オンライン形式なので、どこからでも参加できます！話し合いのレベルはクラス平均レベルに合わせています。学ぶことが楽しいことが一番大切です！過去にレッスンに参加してくれた方々の国はインド、セルビア、スリランカ、ブルガリア、南アフリカ、グルジア、ベトナム、トルコなど。次はどこの国から来てくれるかは楽しみに！

- 日程** 5月8日(月)開講
前期10回(～9/25)
第二・第四月曜 19:00～20:30
- 会場** オンライン開催 (zoom 使用)
- 定員** 10名 (最少催行5名)
- 受講料** 一般17,000円 会員16,000円
25歳以下14,000円
*体験(1回のみ)1,000円
- 講師** アンドレス・パトリシアン
フィリピン出身

皆様へ～メッセージ～

Hi! I'm Patrick and I've been teaching English in Japan for more than 10 years. In this class, we enjoy learning from each other. Social distance may physically keep us apart but with technology, we can still get connected and learn together from a distance. Join this class and enjoy learning English from people around the world!



Patrick

02. タシハンボン / もういちど ハングル



オンライン

さまざまな言葉が街中に戻りつつあります。ハングルを耳にする機会もまたふえてきました。そこで、文字を読むところまでは進んだけれど、その先が…などと言う方たちも、ご一緒しませんか「タシハンボン / もういちどハングル」講座です。

- 日程** 5月11日(木)開講
前期10回(～9/28)
第二・第四木曜 19:00～20:20
- 会場** オンライン開催 (zoom 使用)
- 定員** 10名 (最少催行5名)
- 受講料** 一般17,000円 会員16,000円
25歳以下14,000円
*体験(1回のみ)1,000円

講師 コ・ソングョン
北海道大学大学院 文学院



～講師からのメッセージ～

みなさん、韓国語を聞いたことはあるでしょうね。知っている韓国語はありましたか。お隣の韓国人はどのような考え方をしているのか、またどう暮らしているのか。私と一緒に韓国語を学びながら韓国と韓国人の色々な顔を覗いてみませんか。楽しく学んでいきましょう！

안녕하세요

03. 越境する人と文化を通して読み解く東アジア V —地域から多文化共生を考える



会場 & オンライン

本講座は、2021年度にスタートした連続講座です。2023年度も越境する人と文化を通して東アジアを読み解き、ローカル地域に焦点を当て東アジアの多文化共生について考えます。具体的には、比較の視点を取り入れて、ローカルとグローバルを結ぶ人と文化(食、音楽、スポーツなど)に着目し、日中韓のそれぞれ二つの地域を取り上げます。講座では文献資料と映像資料を用いるほか、フィールドワークを通して得た研究結果から現場の声を適宜紹介します。

- 日程** 4月18日(火)開講 全6回 月1回火曜 18:45～20:45
- 会場** さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可
- 参加費** 通し(会場・オンライン共通) 一般6,000円 会員4,800円 25歳以下2,400円
(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)
- 講師** 朴仁哲(ぼくじんてつ)



中国黒竜江省生まれ、1997年来日。1999年から通訳・翻訳者として日中韓に関わり、草の根の交流を行っています。北海道大学教育学博士。多文化共生・国際交流研究事務所所長、特定非営利活動法人社会理論・動態研究所研究員。専門は外国語教育、東アジア地域研究、人の移動と移民研究、多文化共生・国際交流研究など。
HP: <https://sapporobc.wixsite.com/officeyou>

4月18日(火) 第1回

鹿児島県を事例として

鹿児島は明治維新と深い関わりのある地域です。鹿児島出身の著名人には、明治維新と深く関わった西郷隆盛や大久保利通がいます。また、鹿児島県には、「維新ふるさと館」や「知覧特攻平和会館」があります。第1回では、明治維新・特攻・戦争をキーワードに、東アジアを読み解いていきます。

5月16日(火) 第2回

山口県を事例として

山口県も明治維新と深い関わりのある地域です。山口県出身の著名人には、吉田松陰や高杉晋作ら明治維新と深く関わった人物の他、伊藤博文や山縣有朋ら歴代首相経験者が多くいことも知られています。そして戦前、下関から朝鮮半島南端の釜山の間を運航していた鉄道連絡船(関釜連絡船)があり、そのルートから、多くの人々が移動しました。第2回では、「明治維新や政治」、「人の移動」をキーワードに、東アジアを読み解いていきます。

6月20日(火) 第3回

韓国の慶尚南道を事例として

慶尚南道(キョンサンナムド)は韓国において、日本の様々な地域と盛んに交流を行っている地域です。慶尚南道は戦前、多くの日本人が暮らしていた地域であり、また日本と中国東北地域へ多くの移住者を送り出した地域でもあります。第3回では、人の移動と国際交流などをキーワードに、東アジアを読み解いていきます。

7月18日(火) 第4回

韓国の慶尚北道を事例として

慶尚北道(キョンサンブクト)も戦前、多くの日本人が暮らしていた地域であり、また日本と中国東北地域へ多くの移住者を送り出した地域でもあります。慶尚北道出身の著名人には、元韓国大統領の朴正熙(パク・チョンヒ)や作家の森崎和江がいます。第4回では、「人の移動と政治」をキーワードに、東アジアを読み解いていきます。

8月22日(火) 第5回

中国の黒竜江省を事例として

黒竜江省には、国内の山東省からだけでなく、戦前には、日本と朝鮮半島からも多くの人々が移住しました。今でも黒竜江には、日本と朝鮮半島から移住した人々の子孫が暮らしています。第5回では、第3回・第4回と関連づけて「人の移動、国際交流、政治」をキーワードに、東アジアを読み解いていきます。

9月19日(火) 第6回

中国の遼寧省を事例として

遼寧省も戦前、日本と朝鮮半島から多くの人々が移住しました。遼寧省出身の日本人には、指揮者の小澤征爾や女優の山口淑子(『夜来香(いらいしちゃん)』などの歌が有名)がいます。遼寧省大連市の旅順には「二〇三高地」があり、日露戦争の激戦地でした。第6回では、主に「人の移動や戦争」をキーワードに、東アジアを読み解いていきます。

04. 人と動物との共存・共生をめざして part 2



会場 & オンライン

2019年度後期から6期にわたり実施した「人も動物も満たされて生きる～アニマルウェルフェア（動物福祉）をめぐる～」の延長で、「人と動物との共存・共生のあり方」をテーマに学習しています。今期は、獣医師や動物保護団体のメンバー、研究者らが講師となり、それぞれの現場の課題などに学びながら、人と動物とのより良い関係を創る道筋を探っていきます。

日程 4月21日（金）開講 全6回 月1回金曜 18:45～20:45
会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）＊オンライン受講も可
参加費 通し 一般6,000円 会員4,800円 25歳以下2,400円
（単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回）
コーディネーター アニマルウェルフェア講座担当チーム



4月21日（金）第1回

アニマルウェルフェア（動物福祉）入門

●徳光 綾子（とくみつあやこ）
（一社）アニマルウェルフェア畜産協会 会員
2019年度後期の最初の回からアニマルウェルフェアの講座に参加し、はや3年半が経過しました。参加するにつれて得られた知識をもとに、「入門編」として皆様にご紹介し、お伝えします。

5月12日（金）第2回

マガンによる小麦食害と地域共生

●牛山 克巳（うしやまかつみ）
宮島沼水鳥・湿地センター センター長
ラムサール条約湿地である美咲市の宮島沼に飛来する数万羽のマガンは、地域の農家にとってはやっかいな害鳥です。しかし、工夫をすれば益鳥になるかもしれません。野生動物と農業の軋轢や、農業と生物多様性保全のあり方について考えます。

6月9日（金）第3回

屠畜場のアニマルウェルフェア — 飲用水設備の設置に向けて

●奥野 尚志（おくのひさし）
獣医師・（一社）アニマルウェルフェア畜産協会 事務局長
屠畜場における家畜への配慮は、AWの観点からも欠かせません。その結果、家畜や関係者のストレスの軽減、品質の向上、食育の発信などをもたらします。講座では、家畜の飲用水設備の設置問題を中心に話します。

7月7日（金）第4回

タンチョウはなぜ遊水地に棲み続けるの？

●正富 宏之（まさとみひろゆき）
（一社）タンチョウ研究所 特別顧問
●正富 欣之（まさとみよしゆき）
（一社）タンチョウ研究所 所長
タンチョウは長寿や夫婦円満を象徴するめでたい鳥です。ヒトは彼らの棲み場を壊して絶滅の縁へ追いやりながら、一転、餌を与えて群れを復活させました。この身勝手なヒトに、タンチョウは如何に 대응のでしょうか。

8月4日（金）第5回

北海道立「動物愛護センター」 設立のための保護活動

●川添 敏弘（かわそえとしひろ）
酪農学園大学獣医学群獣医保健看護学類 教授（獣医師）
北海道動物愛護センター設立のために、酪農学園大が協力することになりました。犬猫の譲渡に向けた学生たちの取り組み（ドッグトレーニングやハンドリング）などから動物愛護について考えます。

9月8日（金）第6回

有機農業とアニマルウェルフェア

●大山 利男（おおやまとしお） ＊オンライン登壇
立教大学経済学部 准教授（農業経済学）・全国有機農業推進協議会 理事
欧米の有機農業運動に大きな影響を与えた、ルース・ハリソン著『アニマル・マシーン』（「遊」では読書会を開催中）。同書の出版から現在に至る経緯を振り返りつつ、有機農業と家畜福祉の未来について考察します。

05. 先住民族の森川海に関する権利 — ヤウンモシリ（北海道）の森林とアイヌ民族



会場 & オンライン

さっぽろ自由学校「遊」では、2022年5月より「森・川・海のアイヌ先住権研究プロジェクト」に参画しています。その成果物のひとつとして、今春には「森林ブックレット」（仮題）を発行する予定です。今回のシリーズでは、特に北海道の森林に焦点をあてながら、プロジェクトで行なっている聞き取りの一部を公開で行ないます。

日程 5月1日（月）開講 全5回 月1回月曜 19:00～21:00
会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）＊オンライン受講も可
参加費 通し 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円
（単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回）

5月1日（月）第1回

アイヌ施策推進法2019と「北海道開拓」 の中での森林—アイヌ民族の「資源権」

●上村 英明（うえむら ひであき）
市民外交センター共同代表、森川海アイヌ先住権プロジェクト代表
「森林ブックレット」作成のきっかけはアイヌ施策推進法でした。八重樫志仁さんをゲストに法律の問題から見てきた、「北海道」の森林制度、政府による利用・採取の歴史から、アイヌ民族の「資源権」を考えます。

6月5日（月）第2回

悟アチャポの森の話・暮らしの話

●お話 作田 悟（さくた さとる）
現在、苫小牧アイヌ協会会長。幼少期を、自然豊かな穂別で過ごす。二十歳過ぎから、現在住んでいる苫小牧に移り住む。
●聞き手 八重樫 志仁（やえがし ゆきひと）
森川海アイヌ先住権プロジェクト副代表、ウラカウクル
今回は母からやり方を習った鳥などの罾について紹介します。その他木々のアイヌ語名などを、紹介します。

7月3日（月）第3回

対談ライブ・三石川の自然と先住権

●お話 幌村 司（ほろむら つかさ）
三石アイヌ協会会長
●聞き手 平田 剛士（ひらた つよし）
森川海アイヌ先住権プロジェクト運営メンバー、フリーランス記者
三石川はサケの上る美しい川です。毎秋のアシリチェブノミ（新しいサケを迎える儀式）を主催する三石アイヌ協会の幌村司会長をお迎えし、GIS（地理情報システム）を使いながら、先住権の「可視化」を試みます。

8月7日（月）第4回

自然界とアイヌの生活

●お話 アシリレラ（山道 康子）
アイヌ活動家。平取町で、生まれ育った。幼少期は野山を駆け回る、活発な子供だった。
●聞き手 川上 恵（かわかみ めぐみ）
森川海アイヌ先住権プロジェクト運営メンバー、さっぽろ自由学校「遊」理事
沙流川を守る会の立ち上げに関わったり、山道アイヌ語学校設立（今は閉校）、一万年祭を開催するなど、現在も活発な活動をしているアシリレラさんに、自然とアイヌの関わりについてお話しいただきます。

9月4日（月）第5回

森・川・海のアイヌ先住権を見える化する

●平田 剛士（ひらた つよし）
森川海アイヌ先住権プロジェクト運営メンバー、フリーランス記者
長らくアイヌ民族の生業を支えてきたこの島の自然環境は、150年にわたる日本の「開拓」政策によって大きく変質してしまいました。日高地方を例にその実態を確認し、先住権に不可欠な環境復元について議論します。



06. 北海道の問題から地球と共生の未来を考える part3 札幌オリパラを考えよう



会場 & オンライン

札幌市長が「オリパラ」誘致に手を尽くしています。市民・道民は「50年前とは違う、他にお金を使って」と反対多数です。オリンピックは「平和の祭典」、でも隣国は戦争中です。ウクライナから日本への避難民が2600人を超えた中（2月）、あまりにも無神経ではないでしょうか。東京五輪はIOCに断れず、「福島復興」もアピールできず、多々の負の遺産に反省もありません。現在は驚きの汚職事件が次々です。世界では「オリンピックは歴史的役割を終えた。」「声を上げなければ札幌。」と聞きます。長野は借金返済に20年（迷宮入り）と言います。オリパラの知らされない面を知り考えましょう。

日程 5月9日（火）開講 全5回 月1回火曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）

参加費 通し（会場・オンライン共通） 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円
（単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回）

コーディネーター 田村リエ子（たむらりえこ） さっぽろ自由学校「遊」会員

5月9日（火）第1回

札幌市の招致活動と 私たちの"不招致"活動

●札幌五輪対策室

近年の札幌市の冬季オリンピック・パラリンピック招致活動と、これに対し2020年夏から札幌五輪対策室（市民グループ）で取り組んできた抗議デモなどの活動を振り返り、今後の動きをみなさんと一緒に考えます。

6月6日（火）第2回

「犠牲の祭典」としてのオリンピック

●鶴岡 哲（うかい さとし）

元一橋大学教員 五輪災害おことわり連絡会

近代五輪の創設者クーベルタンにとってオリンピックは宗教的な「犠牲の祭典」でした。東京五輪であらわになった現代オリンピックの問題を、IOCの理念、歴史と突き合わせて考えます。

7月4日（火）第3回

クーベルタンの「夢と悪夢」から考える オリンピックの未来—札幌をどうするか

●上村 英明（うえむら ひであき）

恵泉女学大学名誉教授、市民外交センター共同代表

クーベルタンが構想したオリンピックの「夢と悪夢」から、現在のオリンピックのいくつもの課題を紹介し、未来に向けて可能性があるのかのみなさんと考えてみたいと思います。

8月1日（火）第4回

地域からオリンピックをどう見るか

●奥田 仁（おくだ ひろし）

北海学園大学名誉教授

スポーツを含む地域文化は豊かさどう関係するのでしょうか。またGDPや計量モデルによる評価はどこまで意味があるのでしょうか。ここでは、現代社会における地域、経済、文化の視点からオリンピックを考えます。

9月5日（火）第5回

話し合い

オリパラよりも安心な暮らしを！

●若月 美緒子・雨宮 恭子・田村 リエ子 ほか

はじめて講座に参加される方も、今まで参加されていた方も、オリパラと暮らしについて考えを伝えませんか。市民の声として札幌市への要望書提出も考えています。



07. 映像で見るウクライナの今



会場

2022年2月24日、ロシア軍のウクライナ侵攻で始まった戦争は、ウクライナのごく普通の市民から平穏な生活を奪ったばかりか、なにものにも代えがたい人の生命を奪い続けている。戦場から遠く離れた地で、私たちに何ができるだろうか。ウクライナのことを忘れないこと、思い続けることだと思う。国内外のニュース、ドキュメント映像から「ウクライナの今」を見つめ、考えます。講師は、当事者であるウクライナ生まれのベロニカさん、セルヒーさん、動向が常に注目されるベラルーシ生まれのタッチャナさんが参加し、参加者と意見交換します。

日程 5月11日（木）開講 全5回 月1回木曜 18:45～20:45

会場 愛生館サロン（愛生館ビル6F・南側奥）

参加費 通し 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円

（単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回）

コメンテーター クラコワ・ベロニカ ウクライナ南部のザポリージャ市生まれ。2020年、来日。札幌在住。

ゴヴォロフスキー・セルヒー ウクライナ南西部のカミヤネツ・ポディルスキー市生まれ。2001年に来日し、熊本を経て03年から千歳市内の会社に勤務。恵庭市在住。

ツァゲールニック・タッチャナ ベラルーシ出身、2006年に来日、現在、北海道大学教育学院大学院生、在日本ベラルーシ人の会のメンバー。札幌在住。

コーディネーター 山本 伸夫（やまもと のぶお） フリーライター

5月11日（木）第1回

9年間の戦争

●主担当 クラコワ・ベロニカ

今回のロシアによるウクライナへの進行は2014年のクリミア半島占領に始まり、東南部地方への絶え間ない攻撃が始まりだ。その遠因は2013年11月に始まった新ロシア派の政府に抗議する「マイダン革命」とされる。今回の今回のウクライナ戦争の歴史と背景を確認する。

6月8日（木）第2回

占領下の市民生活

●主担当 ゴヴォロフスキー・セルヒー

いまだロシアに占領され、過酷な戦場と化した東南部の市民の生活を視聴します。人々はなぜ、故郷にとどまるのか、その生活実態は。過酷な冬を過ごした市民の思いは何かだったのか。

7月13日（木）第3回

ブチャなどのキーウ周辺の虐殺

●主担当 ツァゲールニック・タッチャナ

日本とウクライナのメディアの視点から見たロシア軍による戦争犯罪。

8月10日（木）第4回

戦時下の市民ボランティア連帯

●主担当 クラコワ・ベロニカ

過酷な生活の中で助け合う市民生活。社会を、国を助ける、愛するとはどういうことかを考えます。

9月14日（木）第5回

ウクライナを取り巻く国際環境

●主担当 ゴヴォロフスキー・セルヒー

※上記テーマに従ったテレビ映像を毎回1～3本、1時間視聴します。状況によってテーマ変更があります。
※後期講座10月～2月も継続する予定です。



08. 日本の植民地主義を考える — 共につなぐ未来のために



会場 & オンライン

日本は、朝鮮半島と台湾を植民地とし、15年という長い戦争を継続しました。アジア太平洋戦争では侵略していった多くのアジアの人々や女性たちの尊厳を傷つけたまま、戦争と植民地支配の謝罪も清算も行っていません。今私たちはアジアをはじめ様々な背景を持つ人たちと共に暮らしています。しかし、外国人、アジアの人たちに対する制度的な排除、差別的構造はこの侵略戦争と植民地支配の未清算と無関係とはいえません。講座では、今も引き継ぐ植民地主義を見つめ、共に繋ぐ未来を考えたいと思います。

日程 5月15日(月) 開講 全5回 月1回月曜 18:45 ~ 20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講も可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円
(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 曹金 時江(チョキム シガン) 茶門セミナー・ハンマダン、ギャラリー茶門主宰

5月15日(月) 第1回

特別永住ってどんな資格で他の在留と何が違うのか。在日特権って何のこと？

●曹金 時江(チョキム シガン)

北海道で生まれ育ち札幌在住50年をこす。私自身が持つ在留資格制度とその中の生活、出会った人たちのことを話してみたいと思います。

6月19日(月) 第2回

外国人差別と朝鮮学校

●田中 宏(たなか ひろし)

一橋大学名誉教授

1963年、千円札が聖徳太子から伊藤博文に変わった。この時にある華人留学生からの一言をきっかけに、日本の内なる差別問題に直面し、数々の「壁」を打ち砕くために奔走する田中宏さんの話をお聞きし、差別と植民地主義について考えましょう！

7月24日(月) 第3回

戦時中の三井芦別炭鉱労働者の記憶をつなぐ

●長谷山 隆博(はせやま たかひろ)

「星の降る里百年記念館」前館長。1959年北海道生まれ。幼少期から三井芦別炭鉱で育つ。現在同館アドバイザー。

長年、芦別炭鉱労働者への聞き取り調査を行ってきた、長谷山さんから話を伺います。1945年の敗戦時には日本人は勿論、中国人、朝鮮人、連合軍捕虜もあわせておよそ3300名もの炭鉱労働者がいたこと。また企業「慰安所」もあり、彼らの生活実態はどのようなものだったのかをお聞きし、その一人一人の存在に思いをはせたいと思います。

8月21日(月) 第4回

民族学級を知っていますか

●李 月順(リ ウォルスン)

大阪市生まれ、在日コリアン3世。関西大学非常勤講師、民族教育ネットワーク共同代表。

民族学級は、公立の小・中学校に設置された(主に課外で行われる)取組みである。朝鮮半島にルーツのある子どもを対象にしており、民族学級の教員は、「民族講師」と呼ばれ、朝鮮半島にルーツをもつ在日コリアンである。民族学級は、その設立の時期によって「覚書型民族学級」と「72年型民族学級」の2形態がある。民族学級の歩みは、在日コリアンの民族教育権の闘いの歴史であり、実践である。

9月25日(月) 第5回

「国籍」って何ですか

●シャブイ西花ジョゼ

1963年長野県生まれ。現在は社警町にて便利屋を営む。日本生まれ、日本育ちの外国籍者だった私は、いわゆる「帰化」の手続きを経て日本国籍を取得(スイス→日本)しました。

●曹金 時江(チョキム シガン)

「朝鮮」という地域名を持つ私は国籍って問われれば無国籍。国籍ってなに？

●一人(調整中)

この国のマジョリティである日本人は、日本が嫌だといっても「それなら国籍をかえろ」、あるいは「帰化しないの？」あるいは「日本語上手だね」と言われることは、多分ないでしょう。日本で生まれ、育ちながら絶えず外国人、外国籍、何人、国籍を名乗らなければならない状況とは何なのでしょう。そもそも国籍で差別、区別するとはどういう事なのでしょう。

ダークツーリズム 芦別炭鉱労働者の記憶をつなぐ バスツアー

●日程 7月29日(土) ●参加費 未定

●ガイド 長谷山 隆博(はせやま たかひろ)

「星の降る里百年記念館」前館長。1959年北海道生まれ。幼少期から三井芦別炭鉱で育つ。現在同館アドバイザー。

●見学先(予定)

1. 西芦別町(旧三井芦別炭鉱の本拠、第1坑地区) ~ 三井芦別炭業所跡(1938)、旧三井芦別鉄道三井芦別駅舎(1940)、三井芦別炭鉱殉職者慰霊碑(2004、2005)、函館捕虜収容所第4分所跡(1945.6-9)、旧三井芦別鉄道炭山川橋梁【日本遺産・炭鉄港】 2. 緑泉町(旧三井芦別炭鉱の第2坑地区) ~ 星槎大学(旧頼城小学校)校舎及び体育館【日本遺産・炭鉄港】、函館捕虜収容所第1分所跡(1945.6-9) 3. 頼城町~中国人寮跡(1944-45) 4. 東頼城町~特殊飲食店跡(1944-45) 5. 西芦別町~朝鮮人寮跡(1942-45) 6. 星の降る里百年記念館見学(1993開館)

※詳細については確定次第、ウェブサイト等でご案内いたします。

●共催 茶門セミナー・サラン企画 TEL.090-6446-3974



三井芦別炭業所(1950年代)

お問合せ TEL.011-252-6752

syu@sapporoyu.org

(「遊」事務局)

国際シンポジウム 先住権としての川でサケを獲る権利 — 海と森と川に生きる先住民の集い —

日本でアイヌ民族が「先住民族」と認められたのは、2019年にアイヌ施策推進法が成立してからのことです。しかし、この法律によっても自然資源圏などの先住権は一切認められていません。

そこで、私たちは、オーストラリア・台湾・カナダ・フィンランド・アメリカから、海や川での漁業権の回復を果たしてきた先進的な先住民や研究者をお招きして、シンポジウムを開催することにしました。私たちアイヌが先祖のように川や森の恵みを受けた暮らしをとり戻すにはどうしたらよいか、みなさんと共に学びたいと考えています。

●日程 2023年5月26日(金)~28日(日) ●開催地 北海道十勝郡浦幌町 ●参加費 無料

5月26日(金) 開会セレモニー(14:00~ 会場: 浜厚内生活館)

5月27日(土) 国際シンポジウム PART1 海外先住民ゲストの講演(14:00~ 会場: コスミックホール)

5月28日(日) 国際シンポジウム PART2 海外先住民ゲストの講演(9:00~ 会場: 同上)

国際シンポジウム PART3 車座トーク(12:45~ 会場: 同上)

●主催 ラポロアイヌネイション

●共催 北大開示文書研究会、北海道大学先住民・文化的多様性研究グローバルステーション

お問合せ: 北大開示文書研究会 ororon38@hotmail.com

09. 20世紀を切り開いたアイヌ列伝

part 3



会場 & オンライン

おかげさまで、あの人物を一体いつ取り上げるの？と熱い声援も寄せられます。岩波の月刊「思想」12月号は「北海道・アイヌモシリ セトラー・コロニアリズムの150年」特集でした。先駆者たちの「遺産」を何度も読み直し、たまには充電もしながら、更新を続けます。ともに精神の脱植民地化をめざして。

日程 5月17日(水) 開講 全5回 月1回水曜 18:45～20:45 *8/9のみ 19:00～21:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円

(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 長岡 伸一(ながおか しんいち) 2021年度は後期講座「明治のサッポロのアイヌ史を掘る」を企画。

2022年度は、「核のゴミ」講座で7月と1月に講師をつとめ、33年前の原発関連のテレビ番組取材体験を報告した。

5月17日(水) 第1回

上西晴治を読み、オペラを夢見る

●花崎 皋平(はなざき こうへい)
1931年東京生まれ、著述業

上西晴治(うえにし はるじ 1925-2009)

私は、上西と親しく交わり、しばしば創作の苦労話を聞いた。2019年になって、40年を隔てて小説を再読した。代表作は『コシャマインの末裔』であるが、その他、短編が優れていると思っている。私は自分の詩集「アイヌモシリの風に吹かれて」で、彼の作品からオペラが作られないかと言ったが、それはショスタコーヴィチのオペラを念頭に置いていた。体は大きい繊細な感受性の持ち主だった。



6月14日(水) 第2回

もう一人の知里幸恵

●富樫 利一(とがし としかず)
1932年北海道生まれ、作家、アイヌ文化アドバイザー

知里幸恵(ちり ゆきえ 1903～1922)

「美しく、清らかな、豊かな文才」等、美辞麗句で飾られた幸恵には、恨み、呪う、焼き殺される、と書いたノートがある。そこにもう一人の幸恵が見えてくる。



7月12日(水) 第3回

移住、また移住、また移住の天川恵三郎

●平山 裕人(ひらやま ひろと)
1958年小樽市生まれ、アイヌ史研究者

天川恵三郎(あまかわ けいざぶろう 1864-1934)

旭川近文の地をねらう政商と権力！アイヌ史上、初めて言論で立ち向かった天川。そこには幼・少年期の体験があった！



8月9日(水) 第4回

※この回のみ 19:00 開始

山辺安之助 自ら学校をつくる

●小川 正人(おがわ まさひと)
北海道博物館 職員

サハリン(樺太)に生まれ、幼少年期を北海道の対馬(ついでしかり)などで暮らした山辺安之助(1867～1923)。その生涯には、日露両国のもとで樺太のアイヌ民族が歩まなければならなかった歴史が強く反映しています。



9月13日(水) 第5回

川村カ子トとアイヌ記念館の未来

●川村 久恵(かわむら ひさえ) ※オンライン登壇
川村カ子トアイヌ記念館 副館長

川村カ子ト(かわむら かねと 1893-1977)は、鉄道の難工事の測量技師として長野や樺太など各地で活躍しました。また、父が1916年に始めた施設を受けつぎ、私財を投げうって文化継承の拠点に発展させました。今夏、記念館は新しく生まれ変わります。4代目館長の母として、旭川のアイヌ民族の現代史を語り継ぎます。



10. このままでいいの？

再生可能エネルギーの進め方 part 12



会場 & オンライン

次期生物多様性国家戦略において、「自然環境の保全に支障をきたす形での再エネ導入を防ぐ」と明記された一方、GX(グリーントランスフォーメーション:脱炭素・エネルギー安定供給・経済成長を同時に実現する取組)の目指すものは、実は原発再稼働、再エネの主力電源化など、更なる環境破壊そのものです。風車騒音・水俣の風発問題から人と地域への影響を考えます。また、自然保護の視点から、さらに人類の生存を支える自然の価値についても考えます。

日程 5月18日(木) 開講 全5回 月1回第三木曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円

(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 佐々木 邦夫(ささき くにお) 風力発電を地域から考える全国協議会共同代表

糟谷 奈保子(かずや なおこ) 石狩湾岸の風力発電を考える石狩市民の会

5月18日(木) 第1回

風車騒音による健康影響

●田鎖 順太(たぐさり じゅんた)
北海道大学大学院工学研究院助教(専門は道路、空港、風車等騒音による健康影響)

風車騒音の健康影響に関する科学的知見、国の指針の問題点、各地で予想される影響等について紹介・共有します。

6月15日(木) 第2回

再生可能エネルギーによる問題点を自然保護の観点から考える

●若松 伸彦(わかまつ のぶひこ)
日本自然保護協会 保護・教育部 保護チーム室長(風車やリニア新幹線問題について活動)

全国で急速に風力発電事業が増加。本来、再生可能エネルギーは歓迎されるべきものだが、一部事業は自然環境への配慮が全くされておらず単なる開発事業となっている。自然保護の観点からどのような問題があるのか、学術的な裏付けをもとにお話しします。

7月20日(木) 第3回

水俣の地形・地質と風力発電問題

●長峰 智(ながみねさとる)
日本地質学会会員

肥薩火山区とよばれる古い火山地帯である水俣の山地は地形・地質の成り立ちから土砂災害の危険性が高いところです。こんな場所に風力発電が計画されているのでしょうか。

8月17日(木) 第4回

みなまたに風車はいらない

●中村 雄幸(なかむらゆうこう)
「ちょっと待った!水俣風力発電」代表

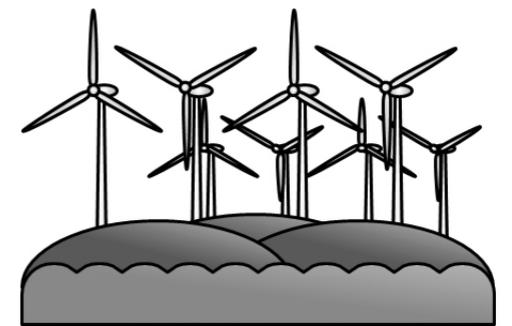
「海(水俣病)のことがまだ片付いとらんに、今度は山(風力発電)かな。あんたも忙しかなー」同業の魚屋に揶揄される。風力が問いかける水俣の自然とヒトとの関わりとは?

9月21日(木) 第5回

生物多様性の持つ意味と循環型社会への転換

●金井 塚務(かないづか つとむ)
広島フィールドミュージアム代表 生態学

脱成長、コモン、環境正義、生物の多様性と生産力、循環型社会への転換。これらをキーワードとして自然の意味とその価値について生態学的な視点で考えてみます。



11. 女性の貧困を考える



会場 & オンライン

新自由主義が進む中、格差社会はますます広がり、女性の貧困化は加速している。また、コロナ禍の中で子どもと女性の自殺者は増え、支援を求める人も増してきている。同時代を生きるものとしてその実態を知り、解決策をさぐっていききたい。

日程 5月19日(金)開講 全5回 月1回第三金曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円
(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 雨宮 恭子(あまみやきょうこ) 遊理事・趣味は畑仕事
能登 睦美(のとむつみ) 遊理事・地域の小学校で図書ボランティアに参加
五嶋 耀祥(ごしまひな) 一般社団法人ファミリー支援 INV 協会代表理事



5月19日(金) 第1回

『困難な問題を抱える女性支援法』について

●近藤 恵子(こんどう けいこ)
NPO法人女のスペース・おん理事 北海道ウィメンズ・ユニオン執行委員長

昨年5月に成立したこの新法は、2年後の施行を目指し、実効性を高めるための準備期間に入っています。支援のあり方を捉え返し、どのような変革が必要か考えてみましょう。

6月16日(金) 第2回

若い世代の貧困の現状と支援について

●菅原 亜都子(すがわら あつこ)
公益財団法人さっぽろ青少年活動協会係長
●yuki(沢田祐季)(ゆうき:さわだゆうき)
NOLIMIT 旭川代表

若い世代の女性に貧困が広がっており、寄り添い支援する動きも出てきています。札幌市と旭川市の状況について携わっている方たちに話していただき参加者全体で交流します。

7月21日(金) 第3回

コロナ禍でより鮮明になった貧困と格差

●工藤 遥(くどう はるか)
拓殖大学北海道短期大学 助教
●五嶋 耀祥(ごしま ひな)
一般社団法人ファミリー支援 INV 協会代表理事

就職氷河期世代に対する施策がないまま広がった格差は、コロナ禍で加速し、貧困層は更に追い詰められています。女性の自殺が増えている状況も含め現状を再把握します。

8月18日(金) 第4回

女性労働の現状について

●近藤 恵子(こんどう けいこ)
NPO法人女のスペース・おん理事 北海道ウィメンズ・ユニオン執行委員長

●桃井 希生(ももい きお)
札幌地域労組書記次長・道警ヤジ排除裁判原告
雇用形態、賃金格差、セクハラ、産む性としての権利保障、子育て環境の整備等、女性が働くことに伴う問題について学び、女性の貧困とのかかわりを考えます。

9月15日(金) 第5回

女性の貧困を解決するために
今できることは…

●近藤 恵子(こんどう けいこ)
NPO法人女のスペース・おん理事 北海道ウィメンズ・ユニオン執行委員長
●菅原 亜都子(すがわら あつこ)
公益財団法人さっぽろ青少年活動協会係長
●yuki(沢田祐季)(ゆうき:さわだゆうき)
NOLIMIT 旭川代表
●工藤 遥(くどう はるか)
拓殖大学北海道短期大学 助教

厳しい状況の中苦しんでいる女性たちが、より生きやすくなるためにはどのような手立てが必要なのか。今回連続講座に登壇して下さった皆さんに再度発言いただき、全体で話し合います。

12. 森崎和江を偲ぶ



会場 & オンライン

森崎和江は日本の統治下にあった朝鮮で生まれ、戦後は筑豊の炭鉱に身を置きサークル村、大正炭鉱闘争にかかわった。その後坑内労働をした女たちの聞き書き等を数多く発表する。植民地で生まれ育った自分の生い立ちと向き合い続け、炭鉱労働者の中に労働と性の問題の原点を見、書き続けた。昨年亡くなった森崎和江を偲び彼女が提示した問いともう一度向き合うことで、今私たちが対峙すべきは何かを問い直したい。

日程 5月20日(土)開講 全4回 月1回第三土曜 14:00～16:00

会場 愛生館サロン(愛生館ビル6F 南側奥) *オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般4,000円 会員3,200円 25歳以下1,600円
(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 雨宮 恭子(あまみやきょうこ) さっぽろ自由学校「遊」理事、趣味は畑仕事
七尾 寿子(ななおひさこ) 森崎さんを遊にお迎えしたことが懐かしいです
水溜 真由美(みずたまり まゆみ) 北海道大学教授



5月20日(土) 第1回

森崎和江と炭鉱

●水溜 真由美(みずたまり まゆみ)
北海道大学教授

森崎和江は、1958年から79年まで筑豊で生活し、『まっくら』や『奈落の神々』では聞き取りの手法を使って炭鉱史を描きました。森崎と炭鉱との出会いや、筑豊の炭鉱に向けた森崎の独自の視点についてお話しします。

6月17日(土) 第2回

森崎和江におけるフェミニズム

●水溜 真由美(みずたまり まゆみ)
北海道大学教授

森崎和江は、女性交流誌『無名通信』を主宰し、『第三の性』や『からゆきさん』では、セクシュアリティや売買春の問題にアプローチしました。これらの運動・著作に見られる先駆的なフェミニズムの思想についてお話しします。

7月15日(土) 第3回

森崎和江の越境する連帯の思想

●玄 武岩(ヒョン ムアン)
北海道大学教授

森崎和江の植民者2世としての特有性を、懐かしさに耐える「自己否定」ではなく、親密性を克服したことに由来するものとみなせば、「互いの本質をコミュニケーションする」連帯の思想の核心的意味が浮か上がってきます。

9月16日(土) 第4回

詩人・思想家森崎和江さんを追慕する

●花崎 皋平(はなざき こうへい)
著述業

森崎和江さんの歩みをたどって、旅を方法とし、民衆思想家として、底辺に暮らす民衆の思想を捉え出した仕事の内容と意義を中心に話したい。同時に詩人としての表現活動も取り上げたい。

講座番外編～森崎講座交流会(対面)のお知らせ

8月にこの講座の番外編として交流会を対面にて行います。それぞれがお気に入りの森崎和江の文章を持ち合って紹介し合ったり、講座の中で言い足りなかったことを話したり…、森崎和江について思う存分語り合ひましょう!詳しくは下記の通りです。

◆日時 8月19日(土) 14:00～16:00

◆会場 愛生館サロン(愛生館ビル6F 南側奥) ◆参加費 500円

申込: さっぽろ自由学校「遊」 Tel.011-252-6752 E-mail syu@saproyu.org

13.SDGs「私たちの声を、地域に」part 2 —多様なセクターが担う役割とは



オンライン

国連は、2015年に持続可能で公正な社会づくりに向けたアジェンダを採択し、2030年までに達成させたい目標をSDGs（持続可能な開発目標）として世界に投げかけました。今年（2023年）はSDGs達成に向けた中間年となります。アジェンダが打ち出す誰もが取り残されずに幸せに生きられる社会、そして未来世代に豊かな環境を残せるような社会を実現するには、どのような変革が必要でしょうか？今回のシリーズでは、北海道メジャーグループ・プロジェクトに参画している多様なセクターから、それぞれの取り組みやその果たす役割について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

日程 5月23日（火）開講 全5回 月1回火曜 19:00～21:00

会場 オンライン開催（zoom使用）

参加費 通し 一般4,000円 会員3,500円 25歳以下2,000円

（単発 一般・会員1,000円/回 25歳以下500円/回）

協力 北海道メジャーグループ・プロジェクト



5月23日（火）第1回

協同組合で働くということ

●石本 依子（いしもとよりこ） 協同組合グループ
労働者協同組合法人ワーカーズコープ・センター事業団、
北海道事業本部本部長代行。

日本の協同組合の総数は約4万1千組織、組合員数は約1億700万人。平均すると一帯が約2つの協同組合に加入していることとなります。いずれの協同組合も地域活性化を明確な目標として掲げ、政府の「SDGs推進円卓会議」に民間構成員として参加しています。

6月27日（火）第2回

企業がウェルビーイングに取り組むことでSDGsは加速する

●清水 誓幸（しみず ちかゆき） 企業グループ
株式会社 北翔 代表取締役、北海道中小企業家同友会
産学官連携研究会 HoPE 代表世話人

働き方改革がスタートし5年が経過しましたが、非正規雇用で働く人の割合も未だ多く、収入が低い層の割合も変わっていません。誰もが働けることで幸福になっていった社会が、今や働いても働いても苦しいままの人の割合が増えています。この様な社会環境でSDGsを意識し取り組む人が増えるのでしょうか？働く人々はその気になるのでしょうか？本音でお話したいと思います。



14. なぜ公害はつづくのか



オンライン

「公害」を、環境破壊と不公正がつながった問題としてとらえるなら、公害はけっして過去の歴史ではなく、現在進行形の問題です。しかし、それは「見えにくく」なり、また、新たな問題も生じています。この講座では、なぜ公害はつづくのか、なぜ解決しないのかを学び、そこから、公正で持続可能な社会への道筋を考えます。

日程 5月30日（火）開講 全5回 月1回火曜 19:00～21:00

会場 オンライン開催（zoom使用）

参加費 通し 一般4,000円 会員3,500円 25歳以下2,000円

（単発 一般・会員1,000円/回 25歳以下500円/回）

コーディネーター 宮内 泰介（みやうち たいすけ） 北海道大学／さっぽろ自由学校「遊」

参考文献 藤川賢・友澤悠季編『シリーズ環境社会学講座 第1巻 なぜ公害はつづくのか—潜在・散在・長期化する被害』（新泉社）、安藤聡彦・林美帆・丹野春香『公害スタディーズ 悶え、哀しみ、闘い、語りつく』（ころから）



5月30日（火）第1回

公害はなぜ続くのか —不可視化の歴史を問い直す

●藤川 賢（ふじかわ けん）
明治学院大学。環境社会学。主著に『公害・環境問題の
放置構造と解決過程』（共著、東信堂）

公害が歴史の事項になる一方、環境問題は次々に起きています。「解決」の背後で似た問題が反復する、その根本にあるものは何でしょうか。歴史の過程で見えなくなっていくものを含めて考えたいと思います。

6月13日（火）第2回

食品公害カネミ油症問題は なぜ終わらないのか

●宇田 和子（うだ かずこ）
明治大学。環境社会学。主著に『食品公害と被害者救済』（東信堂）。

あなたが食品を食べて健康を害したとしたら、どんな救済制度を利用できると思いますか。実はなにもありません。では、実際に被害にあったカネミ油症の人々はどう生き延びてきたのでしょうか。現在の問題に迫ります。

7月11日（火）第3回

水俣病患者たちの今 —胎児性患者の「65歳問題」から考える

●野澤 淳史（のざわ あつし）
東京経済大学。障害学・環境社会学。主著に『胎児性水俣病患者たちはどう生きていくか』（世織書房）

水俣病の公式確認から今年で67年。胎児性患者も高齢化の時代を迎えつつあります。この講座では「65歳問題」を切り口にして、水俣病患者の現在の補償のあり方とそこに潜む解決困難な難問について考えていきます。

8月8日（火）第4回

足尾銅山鉱毒事件は何を今に語るのか

●友澤 悠季（ともざわ ゆうき）
長崎大学。環境社会学、公害・環境思想史。主著に『問いとしての公害—環境社会学者・飯島伸子の思索』（勤草書房）

明治維新から150年、日本の急激な近代化は、数々の「鉱毒」の上に果たされました。足尾銅山からの煙毒・鉱毒をめぐり人びとの経験を例に、こんにちの社会にも続く公害の「原型」を探ります。

9月12日（火）第5回

困難な過去と公害地域再生 —岡山水島での公害資料館づくり

●林 美帆（はやし みほ）
公益財団水島地域環境再生財団（みずしま財団）研究員。
認証アーキビスト。公害資料館ネットワーク幹事。編著に『公害スタディーズ』（ころから）。

公害という「困難な過去」を地域の人たちと共有し、地域の価値に転換するために行っている「みずしま地域カフェ」と『水島メモリーズ』の活動から、公害地域再生と協働の可能性についてお話しします。

15. 現在と歴史

—ウクライナ戦争とアジア・太平洋戦争を考える



会場 & オンライン

「現在」の英語訳は、present。贈り物と同音である。贈り物としての「現在」と考えると違った見方ができる。「歴史」は、history であるが、he-story、男の物語とよく言われる。ウクライナ戦争もプーチンの物語にしてはいけない。現在のウクライナ戦争と過去のアジア・太平洋戦争の類似点が多々ある。戦争とは何かを参加者と一緒に考えていきたい。

1907年に「帝国国防方針」が明治天皇により裁可され1936年改定される。その2項にはこう書かれている。「帝国国防の方針は、～東亜の安定勢力たるべき国力ことに武備を整へかつ外交これに適い以って国家の発展を確保し一朝有事に際しては機先を制して速やかに戦争の目的を達成するにあり～」とある。「機先を制して」とは、「相手が事を行なう直前に行動を起こし、相手の計画、氣勢を抑える」こと。これも安保三文書と共通点がある。

1965年ベトナム戦争反対闘争で一つの詩（歌）が生まれた。詩人は、その最後にこう書いた。「死んだ歴史の残したものは／輝く今日とまた来る明日」 現在が「輝く今日」でありますようにと願う。

日程 5月31日（水）開講 全5回 月1回水曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）＊オンライン受講可

参加費 通し（会場・オンライン共通）一般3,500円 会員3,000円（単発700円/回）

報告者 北村 公一（きたむら きみかず） さっぽろ自由学校「遊」理事、元小学校教員

参考文献 半藤一利、保坂正康、加藤陽子、他多数

5月31日（水）第1回

歴史の見方について、
真珠湾攻撃の意味と影響

6月28日（水）第2回

アジア太平洋戦争前半 戦争とは何か

7月26日（水）第3回

アジア太平洋戦争後半 戦争とは何か

8月30日（水）第4回

太平洋戦争の終戦工作と敗戦、
戦争の終わり方 戦争とは何か

9月27日（水）第5回

沖縄戦の意味
（参考：琉球新報社発行「沖縄戦新聞」）



16. 出版文化の可能性

—北海道から全国に向けて発信しよう part 1



会場 & オンライン

書籍の売り上げが落ち“出版不況”が叫ばれる中、独自路線を進む小さな出版社や地域色をもつ地方出版社への注目が集まっています。東京の大手出版社にはない魅力とはなんなのでしょうか。北海道の書き手を育て、全国に向けてさまざまな書籍を生み出してきた地元の出版関係者が、本を作ることの意義を語り、実践的なスキルを伝授します。

日程 6月23日（金）開講 全4回 月1回金曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）＊オンライン受講可

参加費 通し（会場・オンライン共通）一般4,000円 会員3,200円

25歳以下1,600円

（単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回）



6月23日（金）第1回

日本語と出版文化の現在地

●竹中 英俊（たけなか ひでとし）
元東京大学出版会編集長

出版文化の基礎をなす言語・日本語の成り立ちはどのような特徴を持つか。“地域性”と“全国性”をあわせもつ出版の未来の可能性はどこに見出せるか。学術書を400点以上編集してきた講師が、日本語や出版のおもしろさをさまざまな切り口で語ります。

8月25日（金）第3回

ノンフィクションの作り方

●山本 哲平（やまもと てっぺい）
柏舎編集者

ノンフィクションと一口に言っても、ルポルタージュ、旅行記、自分史、インタビューなどさまざまな形態があります。編集者と札幌在住の著者が企画から出版に至るまでを振り返り、よりよい作品づくりについて考えます。

7月28日（金）第2回

社会運動を本にしよう

●下郷 沙季（しもごう さき）
寿郎社編集者

出版は社会を変える手段の一つ。労働、反戦、アイヌ、原発、障害、ジェンダーなど、身近なトピックに関する活動や主張を書籍にまとめ、より多くの人に届けるために必要な視点や方法とは？ 具体例を挙げて話します。

9月22日（金）第4回

「わかる」文章の組み立て方

●川本 愛（かわもと あい）
北海道大学出版会編集者

読者に伝わる本を著すためには、文章の組み立て方が重要です。問いと回答と論拠が設計されていなければなりません。そのためのコツをアカデミック・ライティングのブローが伝えます。

オーガニック・自然食品専門店
らる畑
おべんとうとおそうざい
らるごはん
札幌市中央区大通西23丁目
Tel 614-2406 Fax 614-3836
http://rarubatake.com
10時～19時(日～17時・祝～18時)

Simple Life, High Thinking
小4から高3まで
スコール ユウ
〒007-0866 札幌市東区伏古6条4丁目4-21
TEL. 785-0228

生活クラブは、
ちょっと変わった
生協です♪
モットーは
「おいしくてカラダによくて
自然を壊さない」です
生活クラブ北海道 検索

内科・神経内科
**札幌中央
ファミリークリニック**
外来一般診療
月火・木金 9:00～11:30
外来は予約してください
札幌市中央区南1条西11丁目
ワズ南一条ビル6F
TEL.272-3455

いつだって No Nuke!

北海道のエネルギーの未来を考える
10,000人の会

雑貨(もの)・ひと・食のひろば
みんたろ
MINTARU
フェアトレード雑貨&レストラン
札幌市北区北14条西3
Tel&Fax.011-756-3600
http://www.mintaru.com
営業時間/11:45-22:00
定休日/日・月・祝日

17. 老後のファイナンシャルプランを考える —人生 100 年時代を豊かに生きるには



オンライン

人生 100 年の時代を迎え、公的年金モデル世帯のレベルでも老後の資金不足が 2000 万円以上になるといふ積算が話題になっている。そこで、本講座では経済的統計を踏まえて、現在の老後の貧困問題を分析するとともに、それを乗り越えて豊かに暮らすためのヒントを検討してみたい。教科書的な説明に留まらず、講師や受講者の皆様の計画や体験を踏まえて、議論したいと考えております。

日程 6月30日(金)、9月1日(金) 全2回 金曜 19:00～21:00

会場 オンライン開催 (zoom 使用)

参加費 通し 一般 2,000 円 会員 1,600 円 25 歳以下 800 円

(単発 一般・会員 1,000 円/回 25 歳以下 500 円/回)

講師 樋口 浩義 (ひぐち ひろよし)

東京都葛飾区生まれ、64 歳。武蔵大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得後退学(経済学修士)、大学院では、会計学を研究する。岩手県立盛岡短期大学(現岩手県立大学)専任講師、助教授をへて、水戸短期大学准教授、教授(その後退職)、現役時代、専門(担当科目)は会計学、経営財務論であったが、最近 10 年間は、とりわけ、公会計学に関心を持ち、政府予算管理の問題を研究。FP 技能士も取得。日本ベーシックインカム学会理事長。

6月30日(金) 第1回

我が国での老後生活の現状

我が国での老後生活の現状を経済統計、文献等によって見ることにする。まず、老後のファイナンシャルプランを考えるにあたって、公的年金等の厳しい現状を検討する。



<「遊」のプロジェクト>

森・川・海のアイヌ先住権研究プロジェクト

このプロジェクトでは、文献調査や聞き取り調査を通して、アイヌの土地・領域・自然資源に対する諸権利を、過去 150 年間の北海道各地の自然環境の変化に即して可視化し、発信していきます。(関連講座・p7)

SDGs・北海道メジャーグループプロジェクト

国連が「持続可能な開発」を議論する際に設定しているメジャーグループを参考に、持続可能で公正な社会づくりを地域で進める上で、多様な主体の声を反映させていこうと 2020 年に立ち上げたプロジェクトです。(関連講座・p15)

※各プロジェクトに関心のある方は、「遊」事務局までお問合せください。syu@sapporoyu.org

18. 老いと向き合う part 9



会場

歳を重ねるといことは人生経験を重ねることでもあります。うれしかったことはもちろん辛かったことも悲しかったことも経験は宝物。参加者どうし、関係団体や施設の方々とも経験を交流し、学び合いながら、老いに向かう未知の日々を生きていく力にしたいと思います。ぜひ一度のそきにおいでください。

日程 5月12日(金)開講 全5回 月1回金曜 14:00～16:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) ほか

参加費 通し 2,500 円 (単発 600 円/回)

コーディネーター 田畑 豊 (たばた ゆたか) さっぽろ自由学校「遊」会員
伊藤 恒雄 (いとう つねお) さっぽろ自由学校「遊」会員



5月12日(金) 第1回

認知症と向き合う

- 菊地 伸 (きくち しん)
社会福祉法人宏友会施設長・札幌市認知症介護指導者
- 巻淵 悠 (まきぶち ゆう)
サービス付き高齢者向け住宅職員

認知症になった友人とどう接したらいいの? 自分が認知症になったらどうなるの? そもそも認知症になるのを遅らせることってできるの? ~話題提供者のお話の後、参加者でそんな疑問を出し合いながらざっくばらんに交流します。

6月2日(金) 第2回

地域とつながる

—西野子ども食堂「かおかお」の見学

- 富塚 とも子 (とみづか ともこ)
西野子ども食堂「かおかお」スタッフ

西野子ども食堂「かおかお」はボランティアスタッフと共に地域で子ども食堂を運営し、子ども達を中心とした地域の方との繋がりを大切にしてきました。「かおかお」の富塚さんのお話から、高齢になってからの地域とのかかわりを考えます。

◇集合場所「かおかお」

札幌市西区西野8条9丁目18-67 tel 090-7055-6729

* JR バス中洲橋行き「西43」バス停「西野8条8丁目」下車・地下鉄琴似・発寒南・宮の沢ターミナルそれぞれから出ています。

◇集合時間 13:50

7月7日(金) 第3回

自然葬 32 年の歩み

—墓からの自由を求めて

- 依屋 年彦 (たわらや としひこ)
さっぽろ自由学校「遊」理事

「自然葬」という言葉は、NPO 法人「葬送の自由をすすめる会」が 1991 年 2 月、発足にあたって起草した「会結成の趣旨」の中で初めて使われました。1991 年 10 月、初の自然葬が行われ、大きな反響を呼びました。そして 32 年が経ちます。墓からの自由を求めて始まった運動は、今大きな節目を迎えようとしています。

8月4日(金) 第4回

交流会

これまでの交流会とは趣を変え、いつも講座を行っている教室にて行います。講座の中で話し足りなかったこと、日頃から「老い」について気になっていること等を自由に交流します。どうぞ気軽にご参加ください。

9月1日(金) 第5回

おひとりさまの食生活

- 今 嗣王 (こん つぐお)
さっぽろ自由学校「遊」会員
- 細谷 洋子 (ほそや ようこ)
さっぽろ自由学校「遊」理事

食は健康の基本であると同時に、日々の暮らしの中での最後まで残る楽しみでもあります。食をめぐる工夫や心がけていることなど、具体的な経験を交流しながら、老いの日々と食について語り合いたいと思います。

19. 簡単健康講座

—五臓六腑の五臓（肝・心・脾・肺・腎）を学ぶ。東洋医学でお手軽養生！



会場 & オンライン

漢方や鍼灸等、明治期に入るまで日本人にとって馴染み深いものでした。古き良き伝統医学の基礎を学び、ご自身の健康管理にお役立てください。全講座を受講することで東洋医学の基礎を身に付けることができます。また、関係の深い薬膳学や漢方学などへ知見を広げていくことも可能です。複雑な内容ですが、産学連携活動で制作したイラスト等を使用して分かりやすくお伝えしていきます。再受講も歓迎です。

日程 5月25日(木)開講 全6回 月1回第四木曜 18:30～20:30

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講も可

受講料 通し(会場・オンライン共通) 一般5,000円 会員4,000円

(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回)

講師 堀口恭弘(ほりぐちともひろ) 整骨鍼灸漢方薬膳福院長

栃木県出身。大樹町にて地域医療を学ぶなか、西洋医学の欠点に気づき東洋医学を学ぶため来札、進学する。中醫師のもと中医学を学び、西洋・東洋医学を折衷した統合医療の実践や各種講座を開催。専門学校にて生薬・漢方学講師を務める。



5月25日(木) 第1回

将軍の官「肝」とは

皆さんが知る「肝臓」と東洋医学の「肝」は異なります。この「肝」の生理や生理特性、からだの関連領域について。肝と表と裏の関係にある「腑」についてのお話もします。

6月22日(木) 第2回

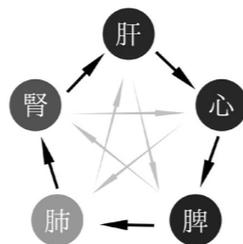
君主の官「心」とは

皆さんが知る「心臓」と東洋医学の「心」は異なります。この「心」の生理や生理特性、からだの関連領域について。心と表と裏の関係にある「腑」についてのお話もします。

7月27日(木) 第3回

倉庫の官「脾」とは

皆さんが知る「脾臓」と東洋医学の「脾」は異なります。この「脾」の生理や生理特性、からだの関連領域について。脾と表と裏の関係にある「腑」についてのお話もします。



8月24日(木) 第4回

相傳の官「肺」とは

皆さんが知る「肺」と東洋医学の「肺」は異なります。この「肺」の生理や生理特性、からだの関連領域について。肺と表と裏の関係にある「腑」についてのお話もします。

9月28日(木) 第5回

作強の官「腎」とは

皆さんが知る「腎臓」と東洋医学の「腎」は異なります。この「腎」の生理や生理特性、からだの関連領域について。腎と表と裏の関係にある「腑」についてのお話もします。

みどり内科
クリニック 内科・消化器科
注射でラクな内視鏡検査できます。
白石区本郷通13丁目南4-27 ムトゥビル2階 ☎866-4563 P有

自然食ホロ
札幌市東区中沼西5条2丁目3-16
TEL: 887-6224
いつも喜んで、感謝して。
<http://holo.sunnyday.jp/>

EAST TIMOR MAUBISSE COFFEE
東ティモール コffee
オガベック フェアトレード
マウベシ コffee
090-8897-3134

20. アイヌアートデザイン教室



会場

アイヌ民族が先住民族と認められてからまだ日が浅いですが、アイヌ文化・芸術の歴史はとても深いものです。生徒さん自身の手で作る事によって、それらの文化を身近に感じる事ができると思います。是非一度チャレンジしてみませんか。お待ちしております。



日程 4月12日(水)より

月2回 第二・第四水曜 13:00～15:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

受講料 4,000円/月(材料費は含みません) *一年間以上の継続が前提となります。

※受講をご希望の方は、クラスの見学(1回)可能です。まずはお問い合わせください。

講師 貝澤珠美(かいざわ たまみ)

アイヌアートデザイナー。1974年8月10日平取町二風谷に生まれる。高校卒業後デザイン学校に通い、'97年に独立。ファッション、インテリア、アクセサリ等、アイヌ文様をモチーフにしたオリジナル作品を製作している。



21. 読書室よりみちまわりみち



会場

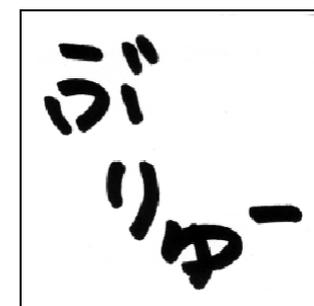
“読書が好き” “興味深い本を紹介してほしい” そんな仲間が集まる、気さくで楽しい場です。ジャンルは問いません。これまで、話題の本、ノンフィクション、旅行記、エッセイ、時代小説から現代小説まで、そして絵本、詩集、写真集、歴史、社会、経済など様々な分野の本が紹介されてきました。普段なかなか手にとることのない本を紹介され、自分の興味対象が広まったりすることも多かったです。自分がおもしろかったと思う本(電子書籍もokです)を紹介し合うことが基本ですが、そこからいろいろに話が広がったり、知らなかったことに気づかされたりすることも多く、それも楽しいです。話を聞くだけでも、おしゃべりするだけでもok、朗読もokです。是非一度、覗いてみてください！本を通して一緒に楽しいひとときを過ごしませんか？新しい仲間をお待ちしてま～す！

日程 4月15日(土)より 全6回 月1回第三土曜 14:00～16:00

4/15、5/20、6/17、7/15、8/19、9/16

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 1回500円 通し2,500円



22. カール・マルクス著『資本論』を読む



会場 & オンライン

『資本論』第一巻「資本の生産過程」をじっくり読み進めていきます。とくにははじめの部分は難しいので、根気強さが求められますが、一緒に励まし合いながら読んでいきます。

日程 5月10日(水)開講 全5回 月1回水曜 18:45～20:45
5/10、6/7、7/5、8/2、9/6

*10月以降も継続予定です。読了のためには、おそらく最低4年前後を要すると思います。

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン参加可

参加費 通し 一般4,000円 会員3,200円 25歳以下1,600円
(単発 一般1,000円/回 会員800円/回 25歳以下400円/回)

チューター 宮田和保(みやたかずやす)

熊本県生まれ。北海道大学卒業。現在、北海道教育大学名誉教授。専門は、理論経済学(マルクス経済学)と言語理論です。せつつかれるのが極めて苦手で、マイペースでしか生きていけない性格です。

テキスト カール・マルクス著『資本論』

『資本論』第一巻(大月書店)を共通テキストにして統一します。他に訳本がありますが、訳本がバラバラだとページが異なるので、煩雑さをふせぐことにします。

参考文献 大谷禎之介『図解 社会経済学』(桜井書店)



23. 花さんの読書ゼミ 記憶に残る詩を味わう



会場

詩人・花崎皋平さんが若い時から親しみ、記憶に残る詩人たちの代表作を取り上げ、参加者で読み、感想を話し合います。毎回、1詩人数編を用意し、事前にメールなどで配信します。花崎さんのポイント解説が随時あります。参加者が取り上げてほしい該当の詩人の作品がありましたら、あらかじめお知らせください。

日程 5月11日(木)開講 全6回 月1回第二木曜 14:00～16:00
5/11、6/8、7/13、8/10、9/14、10/12

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 一般7,200円 会員6,000円 25歳以下3,000円

チューター 花崎 皋平(はなざき こうへい)

1931年東京生まれ。1964-1971年北海道大学文学部教員(西洋哲学)、以後、著述業。「生きる場の哲学」「静かな大地―松浦武四郎とアイヌ民族」「天と地と人と―民衆思想の実践と思索の往還から」など。詩集に「風の通る道」など。最新刊に「詩集アイヌモシリの風に吹かれて」(クルーズ)

◆取り上げる詩人(他にも候補あり)

- ①石川逸子(1933-) 茨木のり子、石垣りんと並ぶ戦後の代表的な女性詩人。詩集「千鳥ヶ淵に行きましたか」など
- ②菅原克己(1911-1988) 室尾犀星に私淑。戦前から左翼運動で活動。1961年共産党を除名。菅原克己全詩集など
- ③田辺利宏(1915-1941) 26歳で戦没死。「わだつみの詩 従軍詩集・浩平詩集・星一つ」(共著)
- ④山之口獏(1903-1963) 沖縄県生まれ。上京後、職を転々としながら放浪生活。生活苦を風刺的にユーモアたっぷりにうたった。山之口獏詩集など



24. 動物福祉の名著 『アニマル・マシーン』を読む



会場 & オンライン

1964年、英国で出版された本書は、のちに世界的なアニマルウェルフェア(動物福祉・AW)推進の原動力になった著作です。全10章のうち鶏関連に3章を割き、牛や豚などの悲惨な飼育実態も紹介。食の安全や法的規制などに言及しています。『沈黙の春』の著者で知られるレーチェル・カーソンは、「本書に触発されて消費者が立ち上がることによって、この巨大な新式の畜産業が軌道修正に追い込まれるように、と願う」との序文を寄せました。2022年度後期に続き、邦訳を輪読しながら、その後のAWをめぐる状況なども考察していきます。参加される皆さんと一緒に、工場畜産のあり方を変えていく道筋を探りたいものです。

日時 4月22日(土)開講 全6回 月1回土曜 13:30～15:30
4/22、5/13、6/10、7/8、8/5、9/9

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン参加可

参加費 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,500円

テキスト ルース・ハリソン著『アニマル・マシーン』(講談社・1978年)

*邦訳は絶版のため、各章のPDFデータを事前配信します。今回は、第6章「家畜工場のいろいろ」から第10章(終章)「動物と人間の健康のために」までを、1章ずつ読み進める予定です。

コーディネーター 滝川 康治(たきかわ こうじ)

1954年、下川町生まれ。名寄農高酪農科卒業。和光大学人文学部中退。ローカル紙記者や酪農業などを経て、91年からフリーのルポライター。(一社)アニマルウェルフェア畜産協会設立人。著書『狂牛病を追う』(七つ森書館)、『核に揺れる北の大地』(同)など。



25. 「遊」版 うたごえ喫茶 2023

通わそうよ ことばと心! 思い切りうたって気持ちすっきり!



会場

2016年度後期から始まった「うたごえ喫茶」。しばらくお休みしていましたが久しぶりに復活です!! なつかしい歌、お気に入りのうた、思い出のうた、元気が出るうた... みなさんのリクエストでいろんな歌を歌います。みんなで歌うと、みんなの声が合わさって、なぜかとても気持ちがいい!! 参加者どうしの語り合いも大切にしていきます。どうぞ気軽にのぞいてみてください!

日程 4月21日(金)より 全6回 月1回第三金曜 14:00～16:00
4/21、5/19、6/16、7/21、8/18、9/15

会場 愛生館サロン(愛生館ビル6F 南側奥)

参加費 1回500円 通し2,500円 (飲み物をご持参ください)

*定員は10名、完全予約制とします。参加を希望する方は必ず事前予約をお願いいたします。
→予約先...Tel 090-6992-2538(開催日当日まで受け付けます)
*マスクの着用、手指の消毒に協力ください。



美味しい講座「縄文を食べる」



会場

近年明らかになってきた縄文時代の豊かな食生活を知ること、現在の私たちの「食」のあり方を見直します。縄文時代の主食であったどんぐり、栗、胡桃を使って焼いた「縄文クッキー」を食べながら、「食」の歴史を振り返ります。今回の講座のために試作を重ねた独自のレシピも明らかにします。知と食を組み合わせて、楽しさと美味しさの相乗効果を体験できる講座です。

日程 5月30日(火) 18:45～20:45

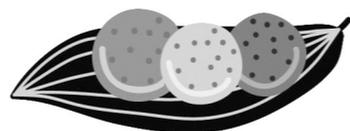
会場 コミカフェ加伊(札幌市東区北39条東17丁目1-27)

参加費 1,500円 ※定員は12人。必ず事前に申し込みしてください。参加は先着順とします。

コーディネーター 俵屋年彦(たわらやとしひこ) さっぽろ自由学校「遊」理事・FM三角山放送局パーソナリティ
若月美緒子(わかつきみおこ) さっぽろ自由学校「遊」会員・「コミカフェ加伊」店主

講師 俵屋年彦(たわらやとしひこ)

さっぽろ自由学校「遊」理事。持続可能な社会を実現するため、衣食住の歴史を振り返り、現在の食のあり方の見直しを探求してきました。理論としてではなく、実際の料理として新しい食のあり方を実現していきます。



オンライン茶話会・遊サロンへのお誘い

Zoomを使ったオンライン茶話会・遊サロンを試行しています。ゆるい会話で、いろいろ情報交換しています。講座の様子や裏話なども聞けます。IT関係などのわからないこと、ちょっとした質問にもお答えします。時間は30-40分くらい。途中参加・退席自由です。前期講座の紹介も行っていますので、お時間があれば、参加してみてください。参加と言っても、聞くだけでもよろしいです。「遊」事務局にメールアドレスをお伝えいただければ、遊サロン開催のメールをお届けします。

(担当・俵屋年彦)

参加申込アドレス moshikomi@sapporoyu.org ※タイトルを「遊サロン参加希望」としてください。

「遊」の公式 Youtube チャンネルへのお誘い

さっぽろ自由学校・遊では、講座の内容をより広く知っていただくため、遊の公式 Youtube チャンネルでPR動画の公開を行っています。パンフレットの内容とともに、参考にしていただくと嬉しいです。講座ごとにまとめています。講座の特徴が、動画になっていますので、お時間のある時に、ぜひご覧ください。

https://www.youtube.com/channel/UCEJ7LS7SqnXob-pjltFQ_OQ/videos



※ PR 動画ページの QR コード

発想を変える 私たちが変わる 世界を変える

PARC 自由学校 2023 講座のご案内

PARC 自由学校は、世界と社会を知り、新たな価値観や活動を生み出すためのオルタナティブな学び合いの場です。1982年から毎年多数の講座を開講しています。拠点は東京ですが、オンラインでご参加いただける講座も開講しています。全国の皆さまのご参加をお待ちしております。

●オンライン参加OKの連続講座(5月から順次開講! / 全4回~15回 / 受講料4,000円~)

01. フィアレス・シティへの道——地域主権と公共の再生をめざして
02. 【PARC50周年記念講座】
「じゃなかしゃば」からポスト3・11世界へ：福島からの新たな一歩
03. 学校給食という希望
04. 新自由主義と闘った知の巨人、宇沢弘文——「人間のための経済学」はどう構想されたのか
05. 刊行100年『アイヌ神謡集』を通じてアイヌ語と知里幸恵について学ぶ
06. ケイトの”What's Happening In The World!?”
07. 武藤一羊の英文精読
08. 世界のニュースから国際情勢を読み解こう

●PARC オンデマンド配信 自由学校アーカイブズ

- ・写真家・大石芳野 顔と風景に刻まれた記憶と歴史
- ・樋口健二・売れない写真家が見つめた日本の闇(2021年度開講講座アーカイブ)
- ・問い続けるものたち—アジアと日本の歴史から描く未来(2022年度開講講座アーカイブ)

★もっと詳しく知りたい方は…

詳細は、PARC 自由学校ウェブサイトをご覧ください。 <http://www.parcfs.org/>

●お申し込み・お問い合わせ

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター(PARC) PARC 自由学校
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル3F
TEL: 03-5209-3455 FAX: 03-5209-3453 E-mail: office@parc-jp.org



JICA NGO等提案型プログラム

国際協力・地域づくりの現場で必須「地域のお作法」発見方法

「地域のお作法」を知っていますか? 地域独自の決まりのことです。住民主体の地域開発・まちづくりを進めるには「地域のお作法」を理解することが不可欠です。本プログラムでは「地域のお作法」とは何かを理解し、習得方法を知ること、地域コミュニティ理解を深め、国内外を問わず住民主体の地域開発・まちづくりを円滑に進めるための根幹を学びます。「地域のお作法」について学び、地域開発を円滑に進めるためのノウハウを身に付けませんか?



●受講料 無料(交通費、宿泊費などは別途必要)

●2023年6月~11月

- ①オンライン講義全5回 6月10日(土)、7月8日(土)、
7月22日(土)、8月5日(土)、8月19日(土)
- ②福岡県東部川流域フィールドワーク(対面) 9月23日(土)
- ③岐阜県揖斐川流域現場実習(対面) 10月7日(土)~9日(月祝) 2泊3日

●お問い合わせ 特定非営利活動法人泉京・垂井

電話: 0584-23-3010 メール: info@sento-tarui.org

詳細はこちら→



NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」 設立趣意

さっぽろ自由学校「遊」は、1990年に設立されました。その最初の呼びかけを引用します。「私たちの住む世界は、めまぐるしい変化を見せています。東欧諸国の自由化の波、アジア・第三世界の解放の動きから私たちのすぐ身近な食べ物、環境、文化まで、新しい〈価値〉が生み出されようとしています。そして、その主人公はどこかの偉いさんではなく、一人ひとりの〈わたし〉のほうです。自由学校「遊」は、そんな〈わたし〉が出会い、学び合い、〈わたし〉と〈世界〉との新しいつながりを創りだすことを願ってつくられました。」

今、21世紀の入り口に立って、新たに以下のことを目指します。

自立と共生 さっぽろ自由学校「遊」は、この呼びかけにあるように自由で自立した市民として、国籍や国境を超えて広くアジアや世界の草の根の市民とつながり、共生するための生き方、知識、技法を身につける場となることを目指します。

平和と人権 さっぽろ自由学校「遊」はまた、一人ひとりの市民が、かつての植民地支配と侵略戦争が他の諸国の人々にもたらした加害の歴史を認識し、その罪に対する反省を共にし、平和と民主主義、正義と人権の理念を、市民社会の日常倫理として身につける場となることを目指します。

交流と提案 さっぽろ自由学校「遊」はまた、教える者と教えられる者の関係が固定した、従来の教育制度上の「学校」ではなく、市民が、考えや知識や技能を相互に交換しあい、お互いのより良い生き方、お互いが恵みを受けている地球環境と人間社会の共生のあり方を探求し、提案し、行動のきっかけを見つける学び合いの場として発展することを目指します。

(2000年7月23日起草)

市民がつくる市民のための学びの場 さっぽろ自由学校「遊」を応援してください！

さっぽろ自由学校「遊」の活動資金は、各事業の参加費のほか、皆様からの会費や寄付金によって賅われています。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

■「遊」の会員になってください

- a. **正会員（年会費 5,000 円）** さっぽろ自由学校「遊」の趣旨に賛同し運営に協力する会員。年1回開催される総会への参加の他、随時行われる企画・運営会議にも参加できます。会報誌「ゆうひろば」や企画案内を随時お送りします。また、各講座には会員料金で参加できます。
- b. **準会員（年会費 3,000 円）** さっぽろ自由学校「遊」の趣旨に賛同する会員。ただし、運営上の権利および責任はもちません。会報誌「ゆうひろば」や企画案内を随時お送りします。また、各講座には会員料金で参加できます。
- c. **特別会員（月 4,000 円／年間 48,000 円）** さっぽろ自由学校「遊」の活動を資金的に支えていただく会員。議決権などの法人運営上の諸権利は正会員と同じ立場です。**単発参加可能なすべての連続講座を無料で受講**することができます。

■ご寄付をお願いいたします

- a. **一般寄付** いただいたご寄付は、「遊」の運営・事業全般に活用させていただきます。用途を特定される場合は、その旨明記のうえお振込願います。
- b. **ひと基金** スタッフの件費補助や、研修等への派遣旅費の補助など、幅広い人材を育成していくための資金援助を目的とした基金です。（1口5,000円）

<ご入金の方法> 郵便振替用紙に必要事項を明記の上、お振込願います。

郵便振替 02780-5-47036 口座名：自由学校「遊」

※他行からお振込みの場合 ゆうちょ銀行（9900）二七九店（279）当座 0047036